

令和元年度 授業改善推進プラン

令和元年8月30日

大田区立大森東小学校



4, 5, 6年生「大田区学習効果測定」の結果と課題

<領域別の結果>

「話すこと・聞くこと」

- 4, 5年生では全国正答率を上回っているものがある。
- 6年生では、自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話す問題で間違いが多く見られる。
(課題) 自分の立場や意図をはっきりさせるよう意識をもたせる必要がある。

「書くこと」

- 5, 6年生では目標値を上回っているものがある。
- 4年生では、指定された長さ、段落構成、意見とその理由を区別して作文を書くことに間違いが多く見られる。
(課題) 基本的な原稿用紙の使い方等、作文の書き方の基本事項を復習する必要がある。

「読むこと」

- 4年生では、目標値を上回っているものがある。
- 5年生では、資料と話し合いを関連付けて考える問題で間違いが多く見られる。
6年生では、段落のまとまりを考えながら読み取る問題で間違いが多く見られる。
(課題) 資料を活用したり、段落のまとまりを意識したりして、文章を読む技能の習熟が必要である。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

- 6年生では、全国正答率を上回っているものがある。
- 4年生では、ローマ字を読む問題で間違いが多く見られる。
5年生では、文の構成(連用修飾語)についての問題で間違いが多く見られる。
(課題) ローマ字の読み書き、文法事項についての習熟が必要である。

国語科の具体的授業改善策

- 話す・聞く力を育てるための改善策
 - 全)・1対1やペア、グループでの対話など、段階的に話し方・聞き方の学習を行う。
 - 低)・日常的にスピーチに取り組み、話をしたり話をよく聞いたりする態度を学ばせる。
 - 中)・スピーチを日常生活の中に多く取り入れ、めあてをもって話したり、メモをとって聞いたりする。
 - 高)・TPOに応じた声の大きさと正しい言葉遣いができるように適宜指導する。
- 書く力を育てるための改善策
 - 全)・視写を多く取り入れる。
 - 低)・習った漢字を使って文を書いたり、つなぎ言葉を使って短い文章を書いたりする練習を行う。
 - 中)・ミニ作文、日記等、日常的に書く活動を取り入れ、文章を書くことに慣れるようにする。
 - 高)・毎日の生活の中での日記、感想文等、文章を書く時間を設け、日常的に取り組みせる。
- 読むことに関する力を育てるための改善策
 - 全)・読書月間の推進と図書時間を隔週1時間程度設定し、じっくり読書する時間を確保する。
 - ・朝の始業前の活動に読書の時間を設定する。
 - ・教科書教材の音読カードを作り、音読の回数や機会を設け、文章や言語についての意識を高める。
 - 中)・物語のあらすじをまとめたり、説明的文章の要旨をまとめたりする練習を行う。
 - 高)・繰り返し音読をし、文章の内容をしっかりと捉えさせるようにする。
 - ・調べ学習の中で、資料から必要な情報を読み取る学習を取り入れる。
- 文字や言葉に関心をもたせるための改善策
 - 全)・新出の文字を練習する時間を確保する。東っ子タイムなどを活用して、小テストをこまめに行い、習熟度を確認する。
 - 低)・言葉を正しく覚え、普段から使用できるように指導する。
 - ・語彙を増やす学習を楽しくできるようにゲームやクイズ的な要素を取り入れながら学習する。
 - ・促音や撥音などの表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使えるように繰り返し学習する。
 - 中)・文字は丁寧に正しく書くよう練習を繰り返したり、文字を書くときに漢字を使ったりするとともに、言葉遊びを通して言語に親しむようにする。
 - 高)・漢字を正確に書けるように、継続してとめ・はね・はらい等をきちんと指導する。
 - 中高)・常に国語辞典を身近に置き、分からない言葉や初出の語句などは自分で進んで調べ、国語辞典の活用を習慣化させる。
 - ・自分の名前等身近な言葉をローマ字で書く機会をもたせる。

4, 5, 6 年生「大田区学習効果測定」の結果と課題

＜観点別の結果＞

※思・判・表…社会的な思考・判断・表現、 技…観察・資料活用 of 技能、 知・理…社会的事象についての知識・理解

「社会的な思考・判断・表現」

○4年生では、「生産や販売」の問題で目標値を上回っているものがある。

●4年生「生産や販売」領域では、生産者の工夫について、消費者の視点に立って考える問題で誤答が目立った。

5年生「安全を守る活動」領域では、消防の施設や設備、火事に早急に対応するための消防署の工夫について考察する力が不十分である。

6年生「工業生産」領域では、日本の輸入品の変化について、その背景を複数の資料をもとに判断する力が不十分である。

【課題】基本的な知識・理解を確実に身に付けさせ、社会的な思考で地域や我が国の国土や産業などに応用していく力を付ける必要がある。

「観察・資料活用 of 技能」

○4年生では「生産や販売」「地域や市の様子」、「先人の働き」の問題、5年生では「安全を守る活動」、6年生では「農業や水産業」「工業生産」領域で全国正答率を上回っているものがある。

●4年生「地域や市の様子」領域では、町探検の様子について、絵地図に示された情報と照合する技能が不十分である。

5年生「県の様子」領域では、縮尺の利用や、地勢図や人口分布図から県の様子を読み取る問題で誤答が目立った。

6年生「国土の自然などの様子」領域では、日本全国の6つの主な気候の特色の理解が不十分であり、多くの児童が日本海側の気候を示す雨温図を正しく選択できていなかった。

【課題】地図やグラフを見て考える問題につまずきが見られる。方角や地図記号などの基礎的な知識やグラフの読み取りをする機会を増やし、確かな技能を身に付けさせる必要がある。

「社会的事象についての知識・理解」

○4年生では「地域や市の様子」の問題、5年生では「生活環境を守る活動」、6年生では「国土の自然などの様子」領域で全国正答率を上回っているものがある。

●4年生「商店街」についての知識・理解が十分ではなかった。

5年生「県の様子」領域では、地図で記号を使った場所の探し方や県境の見方、都道府県の位置と名称についての問題で誤答が目立った。

6年生「工業生産」領域では、太平洋ベルトや日本の主な貿易相手国についての理解が十分でなく、正しく記述ができていない児童や無回答の児童が多かった。

【課題】正しい用語や語句、その意味や知識の理解、または地図の見方や場所の探し方についての理解につまずきが見られるので、年間を通して繰り返し語句や用語に触れたり、地図帳を活用したりする機会を増やす必要がある。

社会科の具体的授業改善策

地域や周りの社会事象に興味をもたせ、理解を深めさせるための改善策

全・本物に触れたり接したりする機会を数多く設定する。また、視聴覚教材を活用して視覚を通して関心・意欲を高め、さらなる理解につなげていく。

中・地域を巡るなどの実地調査や、地域の人の話を聞く等の多くの人材を活用したり、ゲストティーチャーを招くなど地域教材の開発をしたりした取り組みを通して関心を高め、多様な授業形態を工夫する。

社会的な思考・判断・表現 of 力を育てるための改善策

全・学習問題を児童が自ら設定できるように、授業者が単元の導入の授業で提示する資料を精査し、多角的に学習問題に迫れるようにする。

全・調べ学習や体験学習を通して、「調べてわかったこと」「そこから自分が考えたこと・感じたこと」を、実際の授業の中で、繰り返し文章で表す。

全・考えたことをノートやワークシート等に記述することを継続的に行うことで、書くことへの抵抗を減らしていく。

全・体験活動を振り返り、それについて新聞やワークシート等にまとめ、発表する学習をなるべく多く設定する。

観察・技能活用 of 力を育てるための改善策

全・資料の見方や読み方・分析の仕方等を丁寧に指導し、資料を活用する時間をできるだけ多く設定する。

中・習った地図記号を実際に地図上に記入したり、地図上から読み取ったりすることや方位や土地の高さ（特に等高線）に触れる場面を意図的に入れるなどの工夫をする。

高・縮尺や円グラフの見方もその都度指導し、繰り返し見る経験をさせる。

全・何の資料なのか、それからどのようなことがわかるのか等を問いかけ、身近にあるものからグラフの読み方や資料の見方に慣れさせる。

高・複数の資料を比較して共通点や相違点を見付け出す、写真や図版から分かることを抽出したり整理してまとめたりする、様々なグラフや分布図の読み取りを主眼にした活動を授業に盛り込んでいく。

社会的事象についての知識・理解を育てるための改善策

全・重要語句については、その意味や背景を含めて学習できるよう工夫し、板書などに明示し、意図的に繰り返し取り上げて定着を図る。

全・地図帳をいつも手元に置いておく。他の教科であっても、地名が出てきたら地図帳を引く習慣を付けることにより、地図帳を身近なものにする。

4, 5, 6 年生「大田区学習効果測定」の結果と課題

<領域別の結果> ※思…数学的な考え方、表・処…表現・処理、知・理…知識・理解

「数と計算」

○計算技能では、全国正答率を上回っているものがある。

●わり算や分数の問題の中には、立式ができていても、途中の計算ミスや問題に合わせた答え方（思）での間違いが多く見られる。

（課題）基礎のかけ算と、わり算の計算の進め方の確実な定着を図り、問題を深く読み取る意識をもたせる必要がある。

「量と測定」

○4年生では、「時こくと時間」「長さ・重さ」などで全国正答率を上回っているものがある。

●2つ以上の数値を比較したり、適した数値を選択したり（思）する問題につまずきが見られる。

（課題）問題をしっかり理解し、適切な計算で解答を導き出せるよう指導を重点化すると共に、継続的に問題に取り組む必要がある。

「図形」

●辺や対角線の性質から図形を特定したり（知・理）、多角形を作図したり（表・処）する面につまずきが見られる。

（課題）図形の正しい名称と特徴の理解、垂直・平行から多角形までの作図方法の理解と技能の習熟が必要である。

「数量関係」

○グラフを作成する（技能）問題では、全国正答率を上回っているものがある。

●グラフから数値を計算したり、読み取ったり（思）する問題につまずきが見られる。また、問題文に合わせて表に数値を入れたり、計算して求めたり（表・処、思）する問題につまずきが見られる。

（課題）各学年で学習するグラフとその特徴や読み取り、作成方法等について習熟する必要がある。

算数科の具体的改善案

◎問題を読み取る力・表現する力を育てるための改善策（重点）

中高）文章題では、問題文に線を引いたり、具体物や絵、図を使ったりして、可視化、イメージ化を図る。また、「答え」で何を求められているかに下線を引かせ、確認するように指導する。

・文章問題や数直線を扱う問題に多く取り組み、図形領域の向上に向けて定規や分度器の操作を多く取り入れるなど、課題の克服を図る。

○計算力の基礎・基本を身に付けるための改善策

低）1年生「たして5になる計算」「たして10になる計算」、2年生「20までの足し算・引き算での繰上り・繰り下がりの計算」「かけ算九九」などの定着に向け、継続的な計算練習を取り入れる。

・数の違いを数字・絵等で表した具体物を使い、ゲーム感覚で視覚から数の概念を定着させていく。

中高）本校独自の「かけ算九九検定」には引き続き取り組み、計算の基礎を確実に身に付けるようにする。3～6年生の全児童が、1学期・2～5の段、2学期・6～9の段の検定に取り組む。

・既習単元の「2問テスト」を定期的に授業時間内で実施し、基礎・基本の定着を図る。

○考える力を育てるための改善策

全）自分の考えを、言葉、数、式、図、絵などを用いてノートに書き、表現できるように指導する。

そこで理解したことを周囲に説明できる表現力を身に付け、ノートにも表現できるようにする。

なお、ノート作業の良い例は掲示して示し、児童の関心・意欲の向上に役立てる。

・絵やイラスト、式や表を使って問題を考える活動を多く取り入れる。自らの発想力が活用できることで、意欲が高まることにつながる。

○個々の児童の実態に応じた指導の充実を図り、基礎・基本の定着のための改善策

全）レディネステストの活用による少人数指導のグループ編成の工夫、「たしかめプリント」の結果を活用した放課後補習の工夫など、個に応じた指導の工夫により基礎・基本の定着を図る。

・朝学習の時間を活用し、ドリルやプリントで苦手な内容を繰り返し学習する時間を設ける。その際、特に理解が難しい児童には、教師が重点的に指導に当たる。

中高）土曜授業日の3～6年補習時間をベーシックドリル中心の時間とし、複数指導者による対応で基礎・基本の理解・定着を図る。



4, 5, 6 年生「大田区学習効果測定」の結果と課題

<領域別の結果> ※思・表…科学的な思考・表現、 技…観察・実験の技能、 知・理…自然事象についての知識・理解

「物質・エネルギー」領域

- 4～6年生全体的に目標値・全国正答率を大きく下回っている傾向がある。
 - **4年生**「電気の通り道」では、豆電球に明かりがつくような回路や、用語自体の理解が十分でない。(知・理)
 - 5年生**「物の体積と温度」では、基本的な知識は備わっているものの、日常生活の事象における条件に着目して、知識を関係付けながら問題を解決することに課題がみられる。(思・表)
また、「電気のはたらき」における基本的な理解も不十分である。(知・理)
 - 6年生**「ふりこのきまり」でふりこの周期が変わる条件を理解できていないので、その値を求めることができていない。(知・理) (思・表)
- 【課題】基本的な知識・理解を確実に身に付けさせ、科学的な思考で日常における事象に応用していく力をつける必要がある。

「生命・地球」領域

- 6年生では、植物や魚に関する問題で全国正答率や目標値を上回っているものがある。
 - **4年生**「こん虫のからだのつくり」「太陽と地面のようす」で、昆虫の体のつくりの理解が不十分なため、選択肢から昆虫を選ぶことができていない。(知・理・思)
 - 5年生**「1年間の動物のようす」では、オオカマキリの1年間の様子や、涼しくなってきたころの様子などの基本的な知識が不十分である。(知・理)
 - 6年生**「人のたんじょう」で「魚のたんじょう」で学んだ内容との区別ができておらず、受精してから人が誕生するまでの日数を問われる問題で誤答が目立った。(知・理)
- 【課題】基本的な知識や理解を問われる問題につまずきが見られる。観察や実験を通して、実感を伴わせて理解を深めさせる必要がある。

理科の具体的授業改善策

◎基礎・基本の知識・理解の定着をより確かにするための改善策（重点）

- 全) 可能な限り実験を実施したり、植物や昆虫などではできる限り実物を使ったりして、実感を伴いながら学習をさせる。また、実験によっては誤差が出て知識が混乱する場合があるので、教師が言葉や結果を補いながら知識を一般化させるようにまとめの時間を設けるようにする。実験や観察が困難な学習では、写真や模型等を有効に活用して知識の定着を目指す。
- 全) 理科の用語やその意味の確実な定着を図るために、授業中には用語を書いた短冊を掲示していつでも確認ができるようにしたり、フラッシュカードで導入時に復習を行ったりする。
- 全) 学習したことをノートに正しく分かりやすく整理することで、理解を深めるようにする。
- 全) 教科書を有効に活用しながら、単元末にまとめの時間をとる。

○科学的な思考・表現の力を高めるための改善策

- 全) 問題→予想(仮説)→実験(観察)→結果→考察→まとめという学習過程の中で、問題解決の能力を育成する。そのために、学習過程をマグネットにして各学年と理科室に設置し、児童に常に意識させるようにする。
- 全) 考察の書き方が分からない児童がいるため、ノート指導に注力する。中学年、高学年別に文型や文例を示したプリントを作成し、ノートの見開きページに貼って児童自身で確認ができるようにする。
- 全) 実験の結果に対して、予想と比較してどうだったかを振り返らせ、自分の考えをノートに書かせる。
- 全) 理科の用語を用いて自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりする、話し合いの場を設ける。

生活

分析

- 児童の関心・意欲は高く、体験活動では、積極的に活動ができる児童が多い。
- 1年生は、いろいろな人と仲良くなつてかかわりたいと思っている児童が多く、人のかかわりを通して、たくさんの方に気が付くことができた。観察時は、集中力が持続せず、視点がずれてしまう児童が多い。
- 2年生は学年が一つ上がったことにより、1年生と交流したり、お世話をしたりしたいという気持ちをもっている児童が多い。
- 自分の育てている植物を大切に育てようと思っている児童は多い。また、昆虫などに興味をもって、進んで見つけようとしている児童もいる。
- 地域に公園が多いということもあり、よく遊ぶ公園のよさなど地域のよさを、自分なりに感じている児童が多い。
- 2年生は、興味・関心をもつ対象として、ひみつ基地づくりや植物を育てること、虫を見つけて育てようとするに強い意欲をもつ児童が多い。
- 町たんけんのお店見学では、大人から話を聞こうとする集中力の高さが身に付いていた。

課題

- 虫を怖がったり、触れなかつたりすることから、活動に消極的な児童もいる。
- 気付きを自分の言葉で表現できるが、文章化できない児童がいる。
- 気付きをまとめるための技能が低い。
- 聞く時、話す時、活動する時を区別しないで行動する時がある。

具体的改善策

- * 知的好奇心や探究心を養うため、自然や人・社会とかかわれる体験的な活動を積極的に取り入れる。理科・社会科の学習への接続を図るため、気付きの質を高めることができるような工夫をする。
- * 気付きの質を高めるために次のような点に留意して指導する。
 - ・ 個々の気付きを児童間で共有する場を設定する。
 - ・ 気付いたことのまとめ方を教師から提示し、または、教師から手本を示して、自分なりにまとめることができるように支援していく。
- * 単元を通して、目的意識やめあてについて見通しをもって学習できるよう単元計画を工夫する。
- * 学習へ主体的に参加することができるよう、学習のめあてや活動の意図について十分に理解させる。
- * 身の回りの人々との交流活動を増やせるよう、活動や体験後のまとめの学習では、誰かに伝える、手紙を書くなど相手意識をもたせた学習場面の設定を取り入れる。
- * 分かりやすい発表の仕方について具体的な例を示し、学習で使えるようにする。
- * 話し合いを活発にするために、少人数の話し合い学習を計画的に取り入れるようにする。
- * きちんと区別して行動することが重要なので、今度取り組んでいく。

音楽

分析

- 歌唱においては、歌うことが好きで発声に気を付けて歌えるようになってきた。
- 器楽においては、いろいろな楽器に興味をもち、演奏することに意欲をもっている児童が多い。
- 鑑賞においては、いろいろな楽曲に興味をもち、楽器の音色やリズムに興味をもって聴いている。
- 音楽作りにおいては、即興表現を楽しんだり、グループ活動に興味をもったりしている児童が多い。

課題

<低学年>

- 歌唱の姿勢や声の出し方など、発達段階に応じた指導を行うこと。
- 鍵盤ハーモニカや打楽器の奏法については、基礎・基本を身に付けさせること。

○鑑賞においては、楽器の音色やリズムに興味を持たせる楽曲の選曲をすること。

○音楽作りにおいては、拍感を身に付け、リズムによって楽しく身体表現をすること。

<中学年>

○発声の基本を身に付けさせるとともに、輪唱や二部合唱でハーモニー感を養うこと。

○リコーダーの基本的な奏法を学び、いろいろな楽器の音色に気を付けて、演奏すること。

○鑑賞においては、楽器の音色の違いに気付き、楽曲の特徴を感じ取って聴くこと。

○音楽作りにおいては、音符の意味や音高が理解でき、簡単なリズムや旋律を作って、表現すること。

<高学年>

○発声の基本を身に付けさせるとともに、豊かな曲想や和声の響きを感じて歌えるようにすること。

○旋律楽器や打楽器の演奏では、和声の響きや曲の構成を感じて、豊かな表現ができるようにすること。

○鑑賞においては、我が国及び外国の音楽を聴くことによって、さまざまな音楽に興味をもたせること。

○音楽作りにおいては、音高や音符の意味と長さを理解し、リズム作りや旋律作りを通してコミュニケーション能力を伸ばすこと。

改善策

<低学年>

○歌唱の基本である、姿勢・呼吸・発声については既習曲を使って指導し定着を図る。互いに聴き合い歌い合うことで表現する喜びを味わい、授業の活性化を図る。英語の歌も年間2曲指導する。

○鍵盤ハーモニカや打楽器の基本的な奏法については、演奏の見本を聴かせたり、拡大の楽譜や表など ICT を活用したりして分かりやすく指導する。

○リズムを感じ取りやすい曲(2拍子・3拍子)を鑑賞教材として、拍の流れによって身体表現をさせる。

○授業の導入に、まねっこリズムなど身体表現を取り入れ、楽しく表現する雰囲気作りをする。

音符の読み方は、記号(○●など)で段階的に理解させる。

<中学年>

○授業の導入に、発声練習(輪唱)や既習曲を繰り返し歌い、ハーモニー感を養う。歌集を活用して歌える曲を増やし、歌と旋律楽器を合わせて楽しむ。英語の歌も年間2曲指導する。

○リコーダーの運指を毎時間行い、基本の定着を図る。楽器の奏法については、ペア学習やグループ学習を取り入れ、互いに学び合う雰囲気作りをする。

○鑑賞についてはいろいろな楽器の音色や、音を出す仕組みについて実物の演奏や、ICT 機器を活用して、興味・関心を高めるようにする。感想をまとめやすいワークシートを作り、学習内容の定着を図る。

○音符の長さやドレミの読み方については、初歩から段階的に指導する。授業の導入に、即興的なリズム遊びや旋律づくりを行い、互いの表現の面白さを感じ取る。

<高学年>

○授業の導入に発声練習や既習曲を繰り返し歌ったり演奏したりすることを通して、音楽の基礎力を高める。二部合唱のレパートリーを増やし、互いに聴き合って歌うことに親しむ。中学校の合唱曲など教科書以外の曲も年間3曲以上取り組む。英語の歌も年間2曲指導する。

○旋律楽器を演奏するときは、豊かな表現をするために、和声の響きを感じ取らせたり、曲想標語の意味を理解させたりする。ペアやグループ学習を取り入れ互いに学び合う雰囲気作りをする。児童が興味をもって取り組める教材を選ぶ。

○ICT 機器を活用して邦楽の演奏を聴いたり、楽器に触れて音を出す体験をしたりして、和楽器に対する興味・関心を高める。オーケストラの生演奏を聴いて、楽器の音色や楽曲に興味をもたせ、音の出る仕組みについては資料で調べたことを、文字や絵で表したりする。

○読譜や楽語についての学習は、歌唱・器楽の演奏を通して継続的に行い、卒業までに理解ができるようにする。リズム譜やドレミの音高が読め、簡単な旋律を作って表現することを通して、友達とのコミュニケーション能力の伸長を図る。

図画工作

分析

- 題材に対して活発に反応を見せ、意欲的に活動する児童が多いが、集中力の足りない児童もいる。
また、そのことでクラス全体の雰囲気として良くない方向へ流れやすくなる場合がある。
- ユニークな発想をし、構想の能力に優れている児童は多いが、なかなか発想が出てこない児童もいる。
- 表現したいことに対して材料や用具を工夫して使うことができる児童は多いが、あまり考えないで使っている児童もいる。
- 感じたことや思ったことを自分の考えで発言したり書いたりすることができるが、感じ方を深めることができず、単純な見方しかできない児童もいる。

課題

1. 表現することの楽しさを知り、進んで取り組むことが課題である。
→題材の目的や素材のおもしろさに興味・関心を持ち、クラス全体の児童が喜んで表現できるようにする。
2. 自分らしい発想をして、何を表現したいのか明確にして取り組むことが課題である。
→感じたことや考えたこと、見たことなどをもとに、自分らしい発想や豊かな構想ができるようにする。
3. 表現の意図に応じて、用具や材料を自分なりに工夫して使うことが課題である。
→基本的な用具や材料の扱いに慣れさせ、感性を働かせながらそれらを工夫して使うことができるようにする。
4. いろいろな作品を見て美しさを感じ取ったり、味わったりすることが課題である。
→造形作品に親しむ機会を大事にし、その美しさや良さを感じる心を育むようにする。

具体的改善案

・題材の目的や素材のおもしろさに興味・関心を持ち、喜んで表現できるようにするために

<低> 材料や素材の見せ方、与え方や児童がイメージしやすいように師範の仕方などを工夫して興味をもたせ、「図工室での学習のきまり」を守らせることで楽しんで表現活動ができる指導に取り組む。

<中> 新しい材料や素材の見せ方、与えるタイミングや児童がイメージしやすいように師範の仕方などを工夫したり、必要に応じて分かりやすい表現の実例を示したりして、興味・関心を喚起し「図工室での学習のきまり」を守らせることで表現意欲が高まる指導に取り組む。

<高> 表現のテーマや面白さを明確にするとともに、新しい材料や素材と与えるタイミングや児童がイメージしやすいように師範の仕方などを工夫したり、児童作品など表現の具体的な実例を示したりして、興味・関心を喚起し「図工室での学習のきまり」を守らせることで表現意欲が高まり持続する指導に取り組む。

※全学年を通して、ICT機器を使いながら作品などを提示して見せたり、師範する場面を見せたりする。

・感じたことや考えたこと、見たことなどをもとに、自分らしい発想や豊かな構想ができるようにするために

<低> いろいろな材料や素材を触ったり試したりする活動の中で、浮かんでくる発想を大切に指導に取り組む。

<中> いろいろな材料や素材から、発想したことや構想を、必要に応じてアイデア（イメージ）スケッチにまとめ、制作の目安にする指導に取り組む。

<高> ○いろいろな材料や素材から、発想したことや構想を、アイデア（イメージ）スケッチにまとめ、制作の指針にし、先を見通した計画を立て、表現したいことを見付けて表すことができる指導に取り組む。

○見通しをもって構想を練ることに行き詰まる児童については、個別の問題点を取り除いた上で、自信をもって表現できる指導に取り組む。

・基本的な用具や材料の扱いに慣れさせ、感性を働かせながらそれらを工夫して使うことができるようにするために

<低> パステルや絵の具、はさみや接着剤などの基本用具や粘土などの材料の基礎的な技法や表し方を学ばせる指導に取り組む。

<中> 絵の具やパステル、はさみやカッターナイフ、接着剤などの用具や、段ボール、スチロール、軽量粘土などの多

種の材料の扱いに慣れさせ、色彩感覚や造形表現の基礎を育てることに取り組む。

<高> 半立体的表現と絵を組み合わせ、一題材の中に複数の表現要素を取り入れたり、木やアルミ・発砲スチロールなど加工の難易度が高い材料や新素材のミラーシート、軽量粘土なども積極的に扱い、糸のこ機やペンチ、万能ばさみなど多種の用具や技法の組み合わせ方を工夫したりするなど、深い色彩感覚や造形表現の感覚を育てることに取り組む。

・造形作品に親しむ機会を大事にし、その美しさや良さを感ずる心を育むようにするために

<低> 友達の作品や身の回りの作品などから、面白さや楽しさを感じ取ることができるようにする。

<中> 鑑賞の時間を充実させ、表現方法で参考になる友達の作品を見て話し合ったり、身近な作品などに関心をもったりして、その良さや面白さを感じ取ることができるようにする。

<高> 鑑賞の時間を充実させ、表現方法で参考になる友達の作品を見て話し合ったり、我が国や諸外国の美術作品や生活の中の造形に親しんだりして、その良さや美しさなどを感じ取り、生活を豊かにする学習を深めるようにする。

家庭科

分析

- 家庭科の学習内容に対する関心や意欲は高く、特に、調理や裁縫の実習には楽しんで学習に取り組んでいる。しかし、それぞれの家庭生活の中における体験や経験によって培われた知識や技能の差は大きい。
- 日常生活での経験の不足や、読み書き・計算のつまずきから知識・理解が深まらないことがある。裁縫における技法（手縫い・ミシンの縫い方）などは、指示を理解することが難しい場面もある。
- 調理実習では、自分の苦手な野菜を具材で使ったり、食べてみたりするなど、学習の雰囲気では食べられるようになる場面や児童が多い。

課題

- 裁縫や調理については、基礎的な技能を定着させることが課題である。
- 裁縫では、玉止めや玉結びをスムーズにできるようにする。
- 自分や家族の生活に関心を持ち、みんなが快適に過ごせるような実践的な活動を積極的に行うことが課題である。そのためには、① バランスの良い食事をする② 十分な睡眠時間をとる③ 規則正しい生活をする、ということが大切であることを児童は理解しているが、なかなか行動に結びつかない。

具体的改善策

- * 動画や視覚教材を取り入れ、説明だけでなく目で見て分かるように指導を行う。
- * 繰り返し練習の場を設定する。
- * 学んだこと（調理や裁縫など）を自分なりに工夫して活かすために、保護者にも学年便りや保護者会で、協力を求める。学校で学習後、家庭での実践体験を豊富にさせる。
- * 調理や裁縫の基礎・基本・安全に関しては、掲示物やワークシートを用いて、くり返し指導し定着を図る。ミシンの使い方は保護者や地域の方の協力も得て、最後まで作品ができるようにする。理解を深めるために、視聴覚教材の活用やグループ学習等互いに学びあう学習形態を行う。

体育

授業での児童の実態と課題

- ・**技能**・・・器械運動系（鉄棒、マット、跳び箱など）の基本の技が身に付いていないまま学年が上がってしまう児童がいる。
- ・**態度**・・・運動技能の高い児童は進んで運動に取り組むが、進んで友達との教え合いや励まし合いをしようとする場面は少ない。また、運動技能が低い児童の中には進んで運動に取り組む意欲の低い児童もいる。
- ・**思考・判断**・・・運動技能の低い児童は、自ら運動のめあてをもてない児童がいる。また、自分がどの程度できており、どのような技術が不足しているのかを把握できなかつたり、どのような練習で自分の力を高めればよいか分からなかつたりする。運動技能の高い児童でも、技のポイントを言葉で伝えることが苦手な場面が見られる。

「東京都体カテスト」の結果と課題

- ・男女ともに平均を大きく下回るものは「立ち幅跳び」、「50m走」、「ソフトボール投げ」であった。女子では、「上体おこし」「反復横跳び」「20mシャトルラン」についても多くの学年で平均を下回る傾向が見られた。
- ・**課題**
 - ・運動の基礎となる脚筋や体幹の筋力の向上
 - ・ボールを投げる動きの経験を増やすこと

体育科の具体的授業改善策

○児童が学年に応じた技能を身に付けるための改善策

- 全) ・毎時間の準備運動とともに、筋力を高めるための補強運動を取り入れる。
 - ・教師が手本を示したり、運動の資料などを活用したりして、運動のイメージをもてるようにする。
- 低) ・「器械・器具を使つての運動遊び」領域の学習では、回転、体の支持について様々な動きを経験させ、教師が児童の良い動きをすぐに称賛する。
- 中高) ・「器械運動」領域の学習では、技能段階に応じた場を設定し、児童がスモールステップで技能の向上に取り組めるようにする。

○児童が進んで友達と認め合い、励まし合いながら、意欲的に運動に取り組もうとするための改善策

- 全) ・授業の至る場面で教師が児童を認め、励ます姿を見せ、認め合い、励まし合いの雰囲気を作る。
 - ・「いいね」「上手だね」や「ファイト」「もうちょっと」などの言葉を具体的に示すことで、進んで認め合い、励まし合う方法を理解させる。
 - ・マット、鉄棒、跳び箱などを用いた運動に苦手意識をもたせないようにするため、技能的に易しい場を設定する。スモールステップによって小さな成功体験を積み重ねることで、進んで運動する意欲の向上を図る。
 - ・主としてチームで活動する「ゲーム」「ボール運動」領域では、仲間の良さに気付くことができるよう指導する。

○児童が自ら運動のめあてを持ち、運動の仕方を自分で考えたり、技や動きのポイントを言葉で説明したりするための改善策

- 全) ・学習のはじめに、自分の運動のめあてを確認する時間を設定する。学習の目標に沿っためあてが立てられるよう、教師が助言したり、例を示したりする。
 - ・授業の最後に、自分のめあてを振り返ったり、次のめあてを考えさせるようにする。
- 中高) ・学習カードに自分の運動のめあてを書かせるようにする。
 - 全) ・単元の学習に見通しを持たせ、チームや自分の技能がどの段階にあるか、何が足りないのか、どのような練習が必要かを考えさせる時間を設ける。
 - 全) ・児童が技や動きのポイントを理解できるよう、図や映像等を活用する。
 - 低) ・友達の動きを見る視点を明確に示し、どうだったかを言葉にする経験をたくさん積ませる。
 - 中高) ・友達の動きを見る視点を明確に示し、または考えさせ、児童が運動のポイントを探せるようにする。
 - 高) ・グループを中心とした活動を展開し、児童相互に教え合いができるように教師が声をかけていく。

○児童の体力を高めるために、学校全体で取り組む改善策

- *校庭や体育館の各所に掲示物を設置し、児童が意欲をもてるようにする。
- *持久走月間（2か月間）を設け、毎日5分間走を行う。記録を取り、伸びを確かめて運動意欲の向上を図る。
- *長縄、短縄跳びを体育朝会で行い、休み時間に記録をとったり学習カードを配布したりして、主体的な運動を促す。